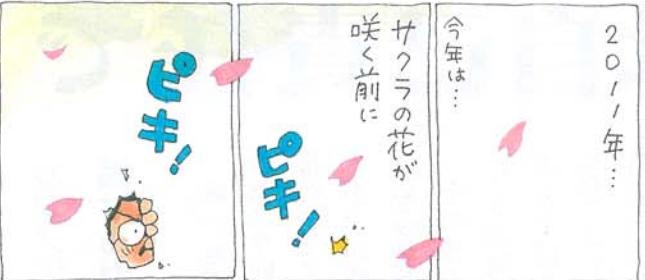


行ジマ 文化論 ヨコシマ日記



「緑のふれあい交流創世ゾーン」約30億もかけた土地購入



ゼロ系新幹線のビニールシート、300万円ナリ



国循の移転は決まらなくとも貨物専用道路の工事は進む

はない」という慣用句の典型。九州から吹田への移転費用約2千7百万円。ゼロ系新幹線がさびないようになると、ビニールシートに約300万円。支払われているのは税金だ。

写真④は、工事が進む貨物専用道路。阪急吹田駅と内環状道路の交差点。この道路ができれば、1日1千台の大型トラックがやってくる。

**思い切った
方向転換を**

ざつと、「東部拠点開発」

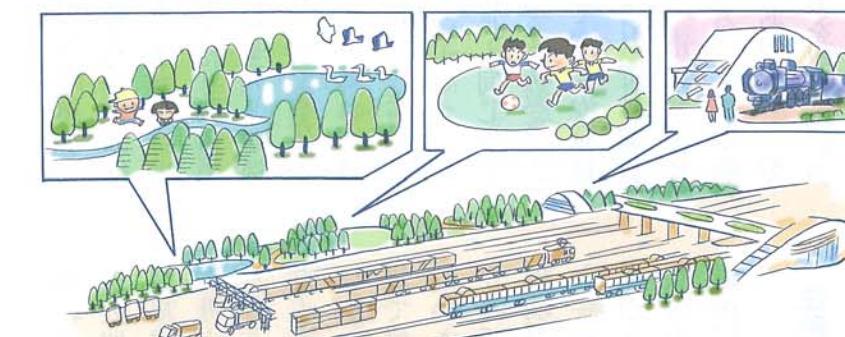
問題だらけの「東部拠点整備」

吹操跡地は 緑あふれる市民の防災公園に



JR岸辺駅北側は急ピッチで整備されている

東日本大地震での甚大な被害を目の当たりにして、あらためてこの国の防災態勢が脆弱であったことが露呈した。原発の安全神話が崩れ、被災者は地震、津波、放射能で3重に苦しめられている。政府や東京電力の対応が後手後手に回り、原発事故が拡大する中、支援



跡地は緑あふれる防災公園にすべきでは？

現実味が欠ける エコメディカルシティ

さて、わが吹田市はどうか？現在の吹田市、最大の課題は吹田操車場跡地の開発（東部拠点整備）だ。JR岸辺駅

物資が到着せず避難所で凍える人々の姿を見て、「この国の無責任体制」に愛想を尽かされた方も多かつたのではないか？

写真①

から吹田駅までの細長く広大な土地。計画では、この場所に国立循環器病センター（以下、国循と略）や市民病院などを移転させて、「エコメディカルシティ」（環境医療都市）を作り、跡地は「緑あふれる防災公園」にするべきではないだろうか。以下、理由を列挙する。

① 大震災が起これば、避難所を確保しなければならぬが、吹田市南部には公園などの大規模なスペースが少ない。

② 北部に比べ、南部は緑が少なく、かつての公害指定地域だった。まして、梅田貨物駅移転に伴つ「貨物専用道路」が建設され、緑の確保が急務である。

③ 市民病院を移転させれば、莫大な費用がかかる。国循が移転する保証もない。

④ 関西大学は高槻に、立命館大学は茨木に新学舎を建設した。どこの学術機関がやってくるのか、メドさえ立っていない。

⑤ すでに吹田市の支出が、

約30億円から60億円にはね上がっている。区画整理によるこの開発が失敗すれば、この先どれだけ税金が使われるのか。現在の状況を写真を見てみよう。

写真①はJR岸辺駅前再開発。大きな駅舎と南北自由通路がほぼ完成している。この地区は、操車場が南北を分断していた地区であり、駅前が整備され、自由通路ができることは歓迎すべきことだろう。駅舎の手前にバスの口

とタリーや商店が並ぶ予定。国循は、この駅舎の左右どちらかに移転し、その病棟に隣接するように市民病院が移転される予定。

写真②は、高層ビルから見た「緑のふれあい交流創生ゾーン」。「緑が足らない」との理由で、吹田市が約30億円を追加して土地を購入。結果、予算が倍増してしまった。

写真③は、JR西日本から譲り受けた「ゼロ系新幹線」。これは「タダより高いもの

の現在の状況を追いかけてみた。さすがにこの開発は無謀だと気付いたのか、現市長は「新たな都市の森」を言い出した。「吹田市南部が破綻したことへの責任はほおかむりしたままだ。今後もどれだけの血税がつぎ込まれるか分からぬ「東部拠点整備」。思い切って「緑あふれる防災公園」に方向転換することを進言したい。